

令和 7 年度 第 2 回朝来市環境審議会 議事要旨

日時：令和 7 年 10 月 7 日（火）

14：00～16：33

場所：朝来市役所本庁舎 401・402 会議室

<出席委員>

石田会長、椿野副会長、増原委員、岸野委員、天野委員、高木委員、藤本委員、藤原委員、村上玖仁子委員、小西委員、野田委員

<欠席委員>

岡田委員、清水委員、衣川委員、西垣委員、村上彰委員

<事務局>

松本市民生活部長、村上市民課課付課長兼環境推進室室長、波多野市民課副課長兼環境推進室副室長、中屋市民課課長補佐兼環境推進室室長補佐、森本市民課環境推進室主査

<議事>

1. 開会
2. 委嘱書交付
3. あいさつ
4. 委員及び職員の紹介
5. 会長及び副会長の選出
6. 協議事項
 - （1）生物多様性地域戦略策定の進め方について
 - （2）生物多様性地域戦略策定に係るアンケート案について
 - （3）環境基本計画等に係る令和 6 年度実施評価について
 - （4）その他
7. その他
8. 閉会

＜協議内容＞

（１） 生物多様性地域戦略策定の進め方について

【事務局】 資料 1 について説明。

【委員】 タウンミーティングはよい企画と思うが、どのような進め方を想定しているのか聞きたい。参加者は 20 名程度を想定しているが、全員を一つのテーブルに集めると、話がしにくくなる。意見を出しやすいように複数のグループに分けるとすると、経験的には 1 グループ 8 名程度とすると、議論を進めやすいと思う。また、色々な参加者に発言してもらえよう、ファシリテーターの進行が重要になる。

参加者は公募としているが、朝来市の生物多様性の未来を担う、若い世代にも参加してもらえよう、高校の生物部などにも参加を呼び掛けてほしい。

【事務局】 タウンミーティングの形式については、詳細はこれから検討することになるが、ご助言いただいたように、7～8 名程度のグループに分けることが適切だと考えている。いただいた意見を参考に、事務局でタウンミーティングの内容の検討を進めたい。

タウンミーティングの広報は、11 月の広報に合わせて実施する。広報による公募のほか、地域で活動している個人や団体に対しては、直接参加を呼び掛ける予定である。和田山高校や生野高校とは、総合的な学習の時間のプログラムの実施に朝来市として関わっているため、こちらにも参加を呼び掛けるようにしたい。

【委員】 生物多様性ホットスポットの抽出について、情報を GIS 上で整理して抽出することだが、例示された情報は陸域に偏っているように見える。朝来市はオオサンショウウオが生息する河川など、水辺や水生生物の観点も重要である。GIS で堰堤の場所の表示は難しいと思うが、どう対応するのか。また、オオサンショウウオの保全については、河川の堰やダムが移動の障壁となっている。ホットスポットの抽出にあたっては、水生生物の情報も含めて解析するのか。

【事務局】 ホットスポットの抽出に用いる情報の収集対象には、陸域だけでなく、水辺の生きものの情報も含める予定である。ただし、堰やダムの情報については、重要な視点ではあるが、入手可能な情報や整理の方針を検討した上で、収集の対象とするかを判断したい。

【委員】 朝来市内の活動団体にヒアリングを行うとしているが、具体的にはどのような市民団体を想定しているのか。

【事務局】 現時点では、各地域自治協議会や日本ハンザキ研究所などを想定している。ま

た、以前は「あさごササユリ 21」という団体があり、ササユリの保全活動をされていた。現在の活動状況は把握できていないが、代表の方にアプローチしたいと考えている。加えて、天野委員が代表をされている団体にも、お話を伺えればと考えている。

朝来市内には自然環境に関する活動団体の数が少なく、課題であると認識している。

【会長】 朝来市では、自然環境に関する市民団体が少ないとのことだが、その理由としては何が考えられるか。他自治体の生物多様性地域戦略においては、市民団体の育成を施策として位置付けているところもあるので、朝来市でも検討してはどうか。

また有識者へのヒアリング先としては、豊岡市にある「兵庫県立コウノトリの郷公園」も考えられるだろう。

【事務局】 市民団体が少ない理由としては、生物部のある高校がなく、幼少から生きもの好きな人がいたとしても、中学～高校くらいの時期に生きものと関わりが途切れるからではないかと感じている。豊岡市にはとても活発な生物部があり、市民活動も活発である。

【委員】 ステークホルダー分析の手法として、「芋づる式サンプリング」というものがある。ヒアリングを行った団体から、別の団体を紹介してもらい、芋づる式にヒアリング対象を見つけ出していき、前に紹介された人が再度紹介されたら、その分野のヒアリング対象は概ね網羅できたと考えるものである。今回は研究ではないので、厳密に行う必要はなく、また予算も限られていると思うのでそれほどたくさんの方にヒアリングを行えないと思うが、参考にしていたきたい。

ヒアリング対象には、生物多様性保全を主目的として活動している団体だけでなく、例えば農業者、林業者など、一次産業従事者にも対象を広げた方がよいのではないかと。

また、GIS 解析で扱う貴重種の位置情報は、必ずしもよいように使われるとは限らず、盗掘などに悪用される恐れがあるため、取り扱いには注意してほしい。他自治体のレッドデータブックなどでも、ピンポイントの生育位置は示していないはずである。また、傍聴が可能な本審議会での扱い方にも注意が必要である。

先ほど意見にあった、ダムや堰に関する情報については、ダムや堰を撤去するという議論ができない以上、扱いが難しいだろう。

【委員】 知り合いで、生物多様性に関わりのある団体をいくつか把握しているので、また紹介する。

朝来市の別のタウンミーティングでは、中学生以上の子どもにも参加してもらい、子どもの意見を吸い上げようとしている。また、「あさご未来会議」で

は、託児が可能であったため、今回のタウンミーティングにおいても託児の実施を検討してほしい。子育てをしている身からすれば、託児ができればタウンミーティングに参加するハードルが下がると思う。また、朝来市として子育て中の市民からも意見聞くというアピールになるのでは。

【事務局】 タウンミーティングでの託児の実施については、前向きに検討したい。

（２） 生物多様性地域戦略策定に係るアンケート案について

【事務局】 資料 2、2-4、2-5、2-6 について説明。

【会長】 アンケート用紙は、一般に無味乾燥なものが多いが、今回の用紙にはイラストが多く用いられていて親しみやすく、この工夫は素晴らしいと思う。

【副会長】 市民・中学生アンケートには、性別の回答欄があるが、性別を問う目的はあるのか。

【会長】 近年のアンケートでは、性別を聞かないものも増えてきている。一方で、性別で傾向が異なる可能性のある設問や、他の事例などで差があることが想定できる設問があるのなら、このような設問があってもよいのでは。

【事務局】 本アンケートは環境基本計画と同様に、他自治体における生物多様性地域戦略策定に向けたアンケートを参考にして作成したが、その中でよくある一般的な質問として、性別に関する設問を加えた。よって、分析する上で重要な、絶対に答えていただきたいというものではないため、「答えたくない」という選択肢も設けた。ただし、他の質問の回答で男女差が生じたときに、施策を検討する上で重要な観点となる可能性はある。この設問を残すか、またはどのような表現とするかは、事務局内で改めて検討したい。

【委員】 中学生を対象としたアンケートは、昨年の環境基本計画策定時も実施しているが、今回のアンケートは一年間での意識の変化をとらえることを目的としているのか。

【事務局】 環境基本計画のアンケートでは、環境に関して幅広く聞く設問となっていたが、今回のアンケートでは、自然環境に関して特化して把握することを目的としている。よって、昨年度アンケートと比較する意図はなく、昨年と同じ質問はあえて設定していない。

【委員】 中学生向けアンケートの中で、朝来市内の自然環境で遊ばない理由を質問しているが、ヤマビルの影響を把握することも検討してほしい。私たちが子どものころは、ヤマビルはまったく見かけなかったが、近年はシカの増加によるものと思うが、ヤマビルの吸血被害が増加している。私も子どもと虫取りに行っていたが、ヤマビルを気にして森に入る機会が減った。

【会長】 シカの増加により、マダニも増えていると考えられる。

【事務局】 ヤマビルによる吸血は、大人でも嫌がられるもので、子どもでは驚いて泣いてしまうこともある。危険性を考えると、最近ではクマもあげられるだろう。設問 10 の選択肢の中に、「危険な生きもの」の例示としてヤマビル、マダニ、クマを記載する方向で検討する。

【委員】 市民アンケートの回答率は、コロナ禍以降、どこの自治体でも低下する傾向にある。回答率を上げる工夫が必要だろう。例えばボールペンを同封するなど、届いた封筒をまず開いて、アンケートを見てもらえる仕掛けがあるとよい。また、予算の都合もあると思うが、朝来市独自のポイント還元などを検討してはどうか。

アンケート用紙の自由記述欄については、ページ数を増やさない範囲でできるだけ広げた方がよい。現状では、自由記述欄としては少し狭く感じる。

【委員】 市民向けアンケートの送付対象は、住民基本台帳から抽出することになっているが、各年代の人数の割合はどのようにするのか。

【事務局】 基本的には、朝来市民の年代の割合が、そのまま反映される形となる。ただし、かなりご高齢の方など、回答が難しそうな方は、予め対象から除いた上で抽出する想定である。

【委員】 環境に関心の高い人は、年齢層が高めとなる印象がある。自由記述の設問は、熱意のある人には書いてもらえるが、そうではない人では回答に抵抗があったり、回答をやめてしまうことにもつながる恐れがある。回答率を上げるため、アンケートや各質問の目的、戦略への活かし方がイメージできるようなコラムや、回答の例示があると望ましい。

【委員】 問題を引き起こす外来種として、アライグマやオオキンケイギクがあげられているが、朝来市ではどの程度の問題となっているのか。

【事務局】 正確に把握できていないわけではないが、特定外来生物のオオキンケイギクは市内で増加していると感じており、老人会や中学校と協力して、駆除の取り組みを行っている。また、アライグマも市内の分布が拡大しており、農業被害も

市内においても一定程度あると感じている。

【委員】 中学生向けアンケートの中で、自然の中で遊ばない理由としては、親から山や川に行かないように指導されているなど、保護者側の意識が反映されていることも考えられないか。

【事務局】 保護者からの指導により、自然の中で遊ぶことが抑制されていることは十分考えられ、アンケート作成時に選択肢として加えることを一度検討したものである。再度、選択肢に加えることを検討したい。

【会長】 「生きものとは動物だけである」ととらえている人もいるため、生きものの例示に植物も含めてほしい。

【事務局】 例示する生きものの種名の中に、植物の種名を加える方向で検討する。

【委員】 中学生向けアンケートの案内文について、表現が硬いことが気になる。もう少し柔らかい表現にできないか。

【事務局】 できるだけ柔らかい表現となるよう、検討する。

【委員】 市民向けアンケートの設問 10 は重要な設問だろう。生物多様性保全のためには、市民への意識づけ、活動参加を促すことが大切だが、市民がより気軽に関われる方法が必要だろう。そのアプローチとして、SNS による発信など様々な取り組みの仕方が考えられる。例えば、問 10 の回答の選択肢に「その他」を加えることで、市民の方がより取り組みやすいと思う方法を探せるのではないか。

【事務局】 「その他」を加えると回答の文章を考える必要が生じるため、負担を考え、回答の選択肢として「SNS による発信」などを加える方向で検討する。SNS で発信を行っている人の数を把握することで、施策検討の参考になりえる。

【会長】 この場でいただいた意見をもとに、事務局にはアンケートの修正を行ってもらいたい。なお、本来であれば修正結果を委員全員に確認いただくべきだが、アンケート実施のスケジュールから考えると、時間が限られており、委員の皆様にご確認いただくのが難しい状況である。そのため、最終の内容確認は会長のみとして進めてもよい。

【委員一同】 異論なし。

(3) 環境基本計画等に係る令和 6 年度実施評価について

【事務局】 資料 3、3-1 について説明。

環境基本計画は令和 7 年度から 10 年間の計画である。今回用意した評価表は令和 6 年度の実績に対する評価であり、今回は来年度に向けたプレ評価的な意味で、とりまとめ方などについて検討、ご助言いただきたい。

【会長】 事務局から説明があったとおり、昨年度に環境基本計画を策定したが、重要なのは計画を実行できているか点検し、評価することである。今年度の評価は来年度実施することになるが、いきなり評価をすることは難しいので、今回は試行的に評価をとりまとめたものである。よって、評価の中身というより、取りまとめ方について、課題や改善点についてご意見をいただきたい。

【委員】 資料の情報量が多いため、例えば、専門分野や関心のあるところに応じて、委員で分担して評価することが必要になるだろう。また、個別の指標ではなく、各基本目標全体としての進捗はどうか、という総評が必要だろう。

【事務局】 資料のつくりとしては、個別の施策の評価指標の向上が、基本目標の評価指標の数値の向上につながるように作成している。それぞれの指標が向上すれば、基本目標の評価も向上するというイメージであり、これが総評にもなると考えている。

【委員】 基本目標の評価指標が、個別の施策の評価指標と直結していないものがあるため、評価が難しいところがある。例えば、各基本目標に対して、全体としてどういう傾向、進捗であるのかの総評のようなもの、コメントがあれば分かりやすい。コメントは事務局または審議会で作成する方法もある。豊岡市などでは審議会で作成している。

今回は中身についての議論ではないのだが、現状に対して高い目標が設定されているものがあるのが、気になるところである。例えば、基本目標 1【脱炭素】の「①市の事務事業に係る温室効果ガス排出量」については、あと 4 年で 2,000t-CO₂ 以上削減するのは容易ではないので、達成が少し難しい状況と感じる。今後は効果の高い対策を講じていくことが重要となるだろう。そのような形で、各分野の専門家が進捗を確認すれば、拡充・強化すべき部分などのコメントをもらえると思う。専門家から、各分野で全体の方針、今後の方向性を示してもらおうとよいだろう。

以上